

第 25 回茅野市新地域公共交通検討会議

開催日時	令和 5 年 7 月 18 日 (火) 午後 6 時 30 分から午後 7 時 35 分		
開催場所	茅野市役所 8 階大ホール		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	10 人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容 (概要)		
事務局	<p>第 25 回茅野市新地域公共交通検討会議を開催。詳細は下記のとおりです。</p> <p>1 開会</p> <p>みなさまこんばんは。一日のお疲れのところ、お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>定刻となりましたので、只今から、第 25 回茅野市新地域公共交通検討会議を開催いたします。スムーズな進行に努めさせていただきますので、ご理解ご協力をお願いいたします。</p> <p>はじめに、会長挨拶、篠原会長お願いします。</p>		
会長	<p>2 会長あいさつ</p> <p>本日は本当に一日暑かったと思います。そんな中お集まりいただきありがとうございます。のらぎあについても 8 月 22 日から本格運用を開始してもうすぐ 1 年となります。のらぎあについては、登録の際にアプリを取り入れるところが大変であります。アプリを登録してしまえばすごく便利だと思います。皆様もお知り合いの方に使い方をお教えいただく中で普及に努めていただければと思います。運行事業者の皆様には利用者目線を持ちながら運行をお願いしたいと思います。引き続きご協力をお願いいたします。</p>		
事務局	<p>それでは、3 の報告事項等に入ります。</p> <p>項目としては、</p> <p>(1) AI 乗合オンデマンド交通「のらぎあ」の運行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行状況等について <p>(2) 通学通勤バスの運行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行状況について <p>(3) 乗合率向上及びアプリ予約の普及について (前回ワークショップ結果)</p> <p>(4) 乗合率向上及びアプリ予約の普及に向けた施策について</p> <p>(5) 福祉 21 外出支援ワーキンググループからの報告です。</p> <p>その後、協議事項としまして、インセンティブ (割引) の設定についてご協議いただきます。</p> <p>それでは、篠原会長、議事進行、よろしくをお願いいたします。</p>		
会長	<p>3 報告事項等</p> <p>それでは報告事項等に入ります。</p> <p>(1) AI 乗合オンデマンド交通「のらぎあ」の運行状況等について、運行支援をしている株式会社地域総合計画から、検証結果および今後の見通し等ご意見を申し上げます。</p>		

地域総合計画担当者	<p>別紙資料1に基づき説明。主要なポイントに絞って説明。利用者の登録者数、予約件数、利用回数について説明。相乗率について集計の仕方を変更したと説明。前回委員の方からもご質問がございましたので、Viaの担当者とも協議する中で、新たな算出方法での集計となっていると説明。考え方については資料1の6ページを説明。乗合率については、運行回数に応じて数字を算出していると説明4グループのうち、2グループが乗合になっていることから乗合率は50%と説明。相乗率については、全利用者に対して同じ予約で複数名かつ乗合にならなかった数で算出していましたが、実際の車両に乗っている人数に対して集計する方法に変更しました。今回の集計からは1予約1名の方を単独乗車、1予約複数の場合には相乗乗車とさせていただきます。そうした結果、乗合率については、前回の40%から17%に過去に遡って修正したと説明。</p> <p>1日あたりの乗車人数についても6月の日平均167名で前月比10%の増加となっており、過去最高の乗車を記録したと説明。移動距離帯別の利用状況についても前回委員から資料への記載を求められておりましたので新たに資料に記載したと説明。主に利用している発着地についても説明し、茅野駅からの距離についても3キロ、6キロを基準として、記載していると説明。</p>
会長	<p>ありがとうございました。ご質問等あればお願いします。</p>
委員	<p>乗合率の考え方について教えてください。乗合率を高めるという発想の原点は効率的な移送や経済的に効果的な移送であると思います。そうなる乗り物に対してどのくらいの乗合率が高まっているかが重要だと思います。算出根拠の例として車両が3台あれば車両で割ると1/3のかなと思いますが、そのあたりの考え方はいかがでしょうか。</p>
地域総合計画担当者	<p>確かに算出方法については、妥当であると思います。今回はViaとも話をする中で事例として算出しているので、竹内委員のおっしゃった算出方法については、事務局と協議したいと思います。委員さんのおっしゃっている見方は車両にフォーカスした見方であり、今回の見方は利用者にフォーカスしたものであると思いますので事務局と協議する中で進めていきたいと思っています。</p>
委員	<p>今後ののらざあのベストな運行を行う上で、取れるのであればデータ算出の方法として両方並べてみるということもいいのかと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。その他にご意見があればお願いします。</p>
全委員	<p>特になし。</p>
会長	<p>次に、(2)通学通勤バスの運行状況について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>通学通勤バスの運行状況について別紙資料2に基づき説明。特徴として5月はピアみどり線の上りで4月と5月と6月を比較する中でかなり利用者が増加していると説明。令和4年と比較しても利用者は非常に多</p>

	い状況。理由としてはコロナの終息も考えられると説明。
会長	ここでご意見等あればお願いしたいと思います。
全委員	特になし。
会長	ありがとうございました。 次に、乗合率向上及びアプリ予約の普及について（前回ワークショップ結果）、乗合率向上及びアプリ予約の普及に向けた施策について一括で事務局から説明をお願いします
事務局	別紙資料 3、4 に基づき説明。相乗りを増やすということは利用者を増やすという原点に立ち戻る中で非常に効果的な手段であると説明。そうした中で、予約の集約ということも重要である。アプリ予約の普及のため、インセンティブの付与についても大変有効であること、アプリ予約による利便性を広報・周知することの重要性について前回のワークショップでご意見をいただいたと説明。 今後の方向性については、のらぎあの説明会の企画・開催、分かりやすいマニュアルや動画の作成、インセンティブの設定について具体例を用いて説明。なお、動画の作成についてはすでに着手していると説明。のらぎあの説明に向けては市役所庁内での連携チームも結成していますので、区・自治会と協力する中で進めていると説明。
会長	少し次第とは順番を変えて、別紙資料 4 のインセンティブについてまずは報告事項の前に協議事項としてご説明をお願いします。
事務局	利用者に対するインセンティブ（割引）についてご協議をお願いしたいと説明。現在 Via と割引の協議を行っている中で、例として相乗乗車の場合に、次回無料チケットを付与することや、初回の無料利用チケットやアプリ予約者を対象とした無料チケットの配布を検討していると説明。その他にもいろいろな手法はあると思いますが、まずはこのような形で進めていきたいと思っておりますので、ご協議をよろしくお願いたします。インセンティブの例として 3 人乗車の場合に、1 人無料や、初回登録者に対して無料のチケットを付与する等を考えていると説明。
会長	割引についてご意見をお願いします。
委員	現在の運賃については、運行業者に入ってくると思いますが、例えば無料チケットの際の運賃補填はどうなるのでしょうか。
事務局	現在も、こども割引や高齢者割引を含めて 1 台当たりの固定の枠よりも下がった分については、行政から補填をしています。基本的に 1 台あたりの運行経費は保証する考えです。今回の協議の中で割引に関する合意をいただいた中で、割引額に対する支援については、現行の割引支援と同様に補填をしていきたいと考えています。
会長	今の意見に対して運行事業者の皆様からご意見ありますか。

委員	特になし。
委員	ワーキンググループの議論の中で割引が有効だという結果だと思いますが、割引したときに利用者は増えるのでしょうか。どこにも割引がないから乗合しないというニーズがあるわけではない中で、安易な割引ではなく、どうして利用しないのかということをもっと分析する必要があります。割引を一旦適用してしまうと、割引がなくなった時に乗らなくなってしまう可能性もあると思います。割引については、慎重に判断すべきだと思います。
事務局	今回はグループワークから出された意見の中で、まずは乗合率を高めることもそうですが、アプリを使っていただくことが重要であると思います。アプリでは乗車時間や車両の動きをスマホで見ることができますが、コールセンターでは何時に到着しますという案内しかできず、なかなかアプリ利用と同等のサービスが提供できていません。Via のシステムについてはアプリ利用で機能を発揮します。まずは、アプリを使っていただけるようにするため、アプリの利用を推奨していくためにはインセンティブが必要だと思う中で今回のご提案とさせていただきます。乗合率を高めるためのパラメーターの設定は随時行っていますが、平行して割引についても行っていきたいと考えています。
会長	アプリ予約の推奨と相乗り乗車を推奨するというのが一つと考えていく中でこのような提案をさせていただいております。金沢地区の事例を事務局から説明をお願いします。
事務局	金沢地区では以前お買い物バスが走っており、相乗乗車をして利用していました。それがなくなってしまったという状況です。今は予約が入りづらいため、地域の方が考えたのが、一つの予約で複数人が乗るということで予約が取りやすくなったという経過がございました。現在もアプリの改修を行っていますが、どうしても現在台数が 8 台しかない中で、利用者に使い方を工夫していただき、そうした取り組みを普及していきたいと考えています。そうした場合に、このようにすると乗りやすいということを提案するために割引を行いたいと考えています。こうした割引を行うことで相乗り率が高まるかは分かりませんが、やってみる価値はあると考えています。
委員	アプリを使わない理由として、価格が高いからとは思わない中で、効果がわからないのであればそれをやる必要はないと思います。他の原因をきちんと分析することが重要だと思います。そうしたことから、運賃を下げることは安易にやるべきではないと思います。
委員	実証運行の時に割引を行った際には利用率もかなり向上しましたので、やるべき価値はあると思います。
会長	そこまで安易ではないと考えています。実証実験時の割引を用いた利用者の増加と金沢地区の状況や利用方法を踏まえる中で試していきたいと考えています。ある程度の中で価値がないということであればやめれ

	<p>ばいいと考えています。</p>
委員	<p>乗合率を上げるようなものは色々やってみればいいと思います。ただ、インセンティブについてもずっとやるのではなく、定着したと判断できたところでキャンペーン等についてはやめればいいと思いますし、分析すればいいと思います。</p>
事務局	<p>すべての割引案については、ある程度の期間を設けてキャンペーン的に行っていきたいと考えています。今日いただいた協議結果を踏まえてどの程度の期間で実施した方がいいのかお示しする中でご協議いただきたいと考えています。</p>
委員	<p>だらだらやるのではなく、期限を区切って、PDCA を回しながら評価をしていけばいいと思います。</p>
会長	<p>それでは次回の検討会議までに何か月行ってどのような効果がでたらやめるのか等をきちんと作ってお示ししたいと思います。</p>
委員	<p>登録はしているが、利用はしていないユーザーが 7 割いる中で、初めてアプリダウンロードした方ではなく、初めて乗られた方に対してインセンティブを付与した方がいいと思います。また、5 回乗ったら 1 回無料のような 1 回乗ったらそれで終わりにならないようなインセンティブも与えられればと思います。</p>
事務局	<p>一回目の利用についてシステム側で可能なのか、5 回乗車した際に 1 回無料についても検討させていただければと思います。</p>
委員	<p>相乗乗車した場合の次回無料となるということについて詳しくお示しいただきたいと思います。例えば、3 人で乗った場合に次回無料です。また 3 人乗りました、次回無料です。となってしまうと無料のループが発生するのか、有料の方と無料の方をどのように分けるのか詰めていただき次回の会議でお示しいただきたいと思います。</p>
事務局	<p>次回の検討会議の際には無料にする方や付与の方法について、もう少し具体例を交えながらお示しできればと思います。</p>
会長	<p>世間的にはどのような割引が有効なのでしょう。</p>
委員	<p>あともう一人呼ぼうというような発想になれば理想だと思います。実態に合わせて人数の調整はしていただければと思います。</p>
会長	<p>Via との打ち合わせを踏まえながら次回の検討会議の中でお示しできればと思います。</p> <p>次に、福祉 21 外出支援ワーキンググループからの報告について説明をお願いします。</p>
副会長	<p>福祉 21 茅野は、20 年以上、茅野市のパートナーシップのまちづくり</p>

の実践を基本にして行っている市民活動団体です。市民の立場からまちづくりを行っている団体になります。パートナーシップのまちづくりの考え方から地域の公共交通を育てていくことが検討会議の役割であり責任であると思います。そこへはどのように市民の意見を集約していくかが重要であると思います。そうした中で、市民の意見を吸い上げていく中で福祉 21 茅野のワーキンググループは重要であると思います。のらぎあや通勤・通学バスについては、ある程度の自信がある中で始めたと思います。また、これを普及させ、定着させられるという自信があったと思います。このような新しいことについては、苦情等も多く寄せられていることは聞いておりますが、これはいいぞということから使ってみようという考えは非常に重要であると思いますし、私もいいものであると実感しています。そういったいい公共交通を使ってもらいたいということでインセンティブを与えてみようという取組みだと思っております。使ってみる中でいいから今後も使ってみようことを築いていただくためにも副会長としては進めていってもらうことは非常に大事だと思っております。福祉 21 の立場からすると、地区と区や社会福祉協議会がいかにか自分の地区に使ってもらえるように働きかけることが重要だと思っております。いかに自分達の区や自治会で取り組んでいくかが必要であると思っておりますし、願いでもあると思っております。そうした中でどうしても漏れてしまうのが障害者であると思っております。自分達の区で障害者がどのくらいいらっしゃるのかということは把握が難しいと思っております。今、福祉 21 で取り組もうとしているのが、障害者手帳をお持ちの方で潜在的にのらぎあを使ってもらえそうな方にいかにかのらぎあを使ってもらうかが目標であります。そのために、障害者手帳をお持ちの 3000 人弱に全員にアンケート調査を行っていきたいと思っております。それぞれ違う障害をお持ちの方でそこから出される個別のニーズにどのように応えていけるかが非常に重要であると思っております。アンケートに要する原資についても整いましたので今週、来週中に実施したいと考えています。それから区、地区の中には仮想停留所を変えてくれということが事務局に提案としてあったそうです。そうしたことは実際にどのような方が住んでいるかを把握していないとできないと思っております。各区がそこを行う中で、仮想停留所の適正化ができれば、区民が使いやすい仮想停留所の位置が決まり、利用も容易になると思っております。大きな区から小さな区まで個別に考えていかないといけないと思っておりますのでそれぞれの地区・区の方にもご協力をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

会長

ご質問があればお願いします。

全委員

特になし

会長

全体を通してご質問があればお願いします。

委員

のらぎあ 1 年になりますが、8000 か所について 1 年間での利用状況を教えてほしい。8000/8000 なのか 6000/8000 なのか教えてほしい。また、12 カ月の中で月に 1 回使われているところがあれば教えてください。

事務局

システム上算出できるため、その数字を出したいと思っております。運行事

委員	<p>業者会議の中でも仮想停留所の精査は必要であるというご意見をいただいています。市としても仮想停留所の見直しに向けた準備を行っています。</p> <p>私の地区では高齢者の身近にいる福祉推進委員の方を対象に説明会を行ってきた。他の地区でもそのような活動をしているのか。これからも新しい情報を盛り込む中で丁寧に地区の中で説明していきたいと思っている中でこれまでに行った説明会の回数等分かれば教えてください。</p>
事務局	<p>昨年度の 8 月から説明会を行っている中で、感覚的には 20 回以上は実施しています。対象は各地区の方に高齢の方を対象に参集をしていただいたりしながら行ってきました。さらに地域を広げる中で、福祉委員の皆様や民生委員さんへの説明会等については庁内での連携を進めていく中で、今後行っていきたいと考えています。</p>
委員	<p>インセンティブの情報もまたいただければ地区での周知に努めていきたいと思しますので引き続き情報提供をお願いいたします。</p>
会長	<p>それでは用意した案件は終了しましたので、事務局にお返しいたします。</p>
事務局	<p>次回は 8 月の下旬から 9 月上旬位に開催できればと考えています。それでは閉会の言葉を副会長からお願いします。</p>
副会長	<p>本日は長時間どうもありがとうございました。非常に体に堪える暑さが続いていますので、体調には気を付けていただきながら、引き続きご意見を賜ればと思います。本日はありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>